

第14週

質問 35. 「主は聖霊によってやどり、処女マリアより生まれ」とは、どういう意味ですか。

答え I 永遠の神の御子が、まことの永遠の神の本質をお持ちになったまま、⁰¹聖霊の働きによって、⁰²処女マリアの肉と血とから、⁰³お生まれになりました。また、まことの人間の本質をお取りになり、罪は別にして、⁰⁴すべての点で兄弟たちと同じようになり、⁰⁵ダビデの子孫として、⁰⁶お生まれになったという意味です。

① 神であるキリストが人となられたのは、私たちが救いを理解するにあたって、一番根本的なことです。そして、キリストの神性と人性の結合が、なぜ重要なのかを理解することも、やはり重要です（キリストの受肉が私たちに与える有益は質問 36 番で扱います）。キリストはご自分を捨て、しもべの姿を取り人として来られました。これは神が喜ばれる御心の中で成し遂げられたことです。神の

01 ヨハネ 1:1, 10:30-36、ロマ 1:3:9:5、コロサイ 1:15-17、1 ヨハネ 5:20.

02 ルカ 1:35.

03 マタイ 1:18-23, ヨハネ 1:14、ガラテヤ 4:4、ヘブル 2:14.

04、ヘブル 4:15、7:26-27.

05 ピリピ 2:7、ヘブル 2:17.

06 IIサムエル 7:12-16、詩 132:11、マタイ 1:1、ルカ 1:32、ロマ 1:3.

御心は、御子を遣わすことでした（ガラテヤ 4:4-6）。そして神は、御子を通して語られました。そしてキリストは、神の奥義を私たちに現してくださいました（ヨハネ 3:34）。キリストは神の御子として、恵みによって私たちが神の子どもと造ることができるお方です（ガラテヤ 4:4-5）。また、キリストは目に見えない神の形として、私たちが神の形に回復させられるお方です（コロサイ 1:19）。神は、罪人たちの救いのためにご自身の御子を遣わすことで、一番高い水準の愛を示してくださいました（ヨハネ 3:16）。

② キリストはマリアの体と血とによって、まことの人間の性質を取られました（マタイ 1:18）。キリストは確かに私たちと同じような人間でした（ヘブル 2:17）。人間の体と靈魂をお持ちになり（マタイ 20:28）、体は幼児期を経て青年期と成長しました。キリストは人間と同じように飢えを覚え、渴きを感じ、涙を流したりもしました。また、キリストは女の子孫と呼ばれ（創 3:15）、アブラハムの子孫（創 22:18）と呼ばれ、肉によればダビデの子孫でした（ロマ 1:3）。

このように処女マリアからお生まれになったのは、その方は原罪がなくお生まれになるためでした（ルカ 1:35）。それでキリストは、アダムとは対照されま（I コリント 15:45, 47）。キリストが身ごもられたのは聖霊の御業による特別な方法によることで、キリストには神性と人性の結合が成されました。キリストは罪のない方です（ヘブル 4:15）。原罪と自犯罪から自由となります。キリストの神性は、人間という性質の中で変更されたり変わったりしません。キリストは人間の体を着ていたとしても、続けて神であられ、その目的は、罪人たちを神と和解させるためでした。

質問 36. イエスさまの聖なる受胎と誕生によって、私たちが得られる有益は何ですか。

答え I その方は、仲保者です。⁰¹ご自身の無罪性と完全な聖さを持って、私たちが生まれた時から持っている罪を、神の御前で覆ってくださいます。⁰²

① イエスさまは仲保者です。そして、仲保してくださるだけでなく、私たちが神と和解させます。イエスは、まことの人間の性質を取られたことで聖徒の仲保者となりました（1テモテ 2:5-6）。その方は、罪によって神と分離され、遠く離れてしまった私たちを、神に近づけてくださいます（1ヨハネ 2:1-2、ロマ 8:33-34、ヘブル 10:19-22）。

イエスさまの受肉による有益は、神の面前で、生まれながら持っている私たちの罪が覆われることです。私たちは罪の中から生まれ、罪が原罪から自犯罪が出て来ます。このような罪は、神に敵対し続け、審判を呼び起こすものです（イザヤ 65:6、詩 90:3）。しかし仲保者であるイエスさまが、神と罪人の間に介入なさって、神の御前で彼らの罪を覆い、取り去って行かれます。それで神は、その罪人たちを責めたり審判をなさらないのです。

② 仲保者は、このようなことをご自分の無罪性と完全な聖さによって行われました。無罪と完全な聖さは、仲保者として必ず備えるべき資質です。それゆえ、その方の聖なる誕生が聖徒に有益を与えるのです（ルカ 2:10-11）。律法は、

01 マタイ 1:22、ヘブル 7:25.

02 イザヤ 43:11、ヨハネ 15:4-5、使徒 4:11、1テモテ 2:5.

聖なる誕生と聖なる生活を要求します。人々にこれらが無い時、律法は呪います。しかし、仲保者の無罪性と完全な聖さが、なだめの供え物として神にお捧げになるのに十分です。傷のないご自身を神への捧げ物と、供え物となられたのは神を喜ばせたことで（エペソ 5:2）、私たちの罪が、神の御前で覆われるようになるのです（ヘブル 10:1-8）。

③ 神の御前で私たちの罪が取り消されなくて、そのまま現れると考えたとき、神から御怒りを受けるのは当然なこと、そのことで私たちの恐れは言葉で言い表せないほどになります（詩 51:3）。罪が私たちを重くのしかかるなら、それは苦痛です（ヨブ 13:26）。従って神の御前で、私たちの罪が覆われるとは、すべての苦しみが中断され、その心に平安があふれ、救いの喜びが大きく起こることです（詩 32:1）。イエスさまが受肉されたことの有益は、キリストが仲介者であり、その仲介者を通して私たちが神の御前で義とされるのです。この恵みは、極めて大きなこととして当然感謝すべきことです。このようなイエスさまの受肉誕生は、旧約から待ち望んでいたことで（ヨハネ 8:56）信仰において根本的な項目です（I ヨハネ 4:2,3）。

④ キリストの受肉誕生の有益を、最も、切実に体験するためには、先ず、あなたの罪が、あなたの目の前で現れるべきです。そしてそのような罪が、神の御前でどのように見せられるのかについて考えることです。あなたの罪を神の御前で、どのように説明できるのかについて考えなければなりません。そのような状況の中で、あなたに一番必要な方がいるなら、どなたでしょうか。その方が私を助けるなら、どのように助けてくださる方であれば良いでしょうか（マタイ 17:11, 9:13、I テモテ 1:15、イザヤ 59:20）。